

「諏訪湖周小径の創生」懇談会発言要旨

懇談会メンバー

【座長】 諏訪建設事務所 所長 田代 幸雄

- 国際ソロプチミスト諏訪 会長 河西 滋子 さん
- 諏訪観光協会 会長 佐久 秀幸さん
- 諏訪市校長会豊田小学校 校長 林 臣彰 さん
- 諏訪湖走友会 会長 三輪 仁志 さん
- 諏訪湖サイクルプロジェクト 渡邊 俊也 さん

(田代所長)

今回の懇談会は諏訪湖周サイクリングロードや、整備中のジョギングロードを含めて、諏訪湖岸の小径として、歩いていただく方、散策していただく方、サイクリングしていただく方の観点から、各分野を代表される皆様より、多角的な御意見をいただきたいと思ひます。

まずは、事務局から説明のあった、諏訪湖周の道路整備の現状と課題について、御意見をいただきたいと思ひます。

(三輪会長)

事務局の説明で満足している。走るものにとっての問題点をあげるなら、やはり走っている者にとって一番危ないのは自転車だと思ひます。自転車がジョギングロードに入られちゃうと非常に危ない。自転車はスピードがあるので、かなり大きな事故につながる。そこが一番問題だ。

また、ジョギングロードが2箇所、つながっていないので、つなげて欲しい。

(林校長)

事務局から説明のあった計画をやってもらえれば、子供たちにとっても故郷を自慢できるロードになる。

諏訪に赴任した時に、湖を一周するサイクリングロードが無いのがとても不思議だった。石彫公園のところは自転車の乗入禁止で、非常にもったいない。小学生(4年生)と遠足で豊田小学校から石彫公園のところまで、ジョギングロードを歩いたが、自転車が通行しており大変危険であった。是非歩車分離の考え方で進めてもらいたい。

(河西会長)

6市町村にとって、諏訪湖は観光的にも一番素晴らしいところだ。地域住民にとっても憩いの場所でもあり、シンボルでもある。もっと早くこういった問題を取り上げてもらえばよかった。自転車の乗り入れが、あぶないから降りてくださいという、場面をよく見かけた。

整備されるという計画を聞いて、お金はかかると思ひますが、ふるさと創生で、今一番補助金をお願いするにはいい時期なので、一年でも早く仕上がるようお願いしたい。

(佐久会長)

過去には、諏訪湖マラソンと、同時に自転車レースを検討した経過もある。サイクリングロードができれば、子供たちの素晴らしい思い出づくりや、安全と安心の子育ても可能になる。また高低差が6.5メートル程度の平地のコースであり誰もが楽しくゆっくりと、またスピードを出して走る方も加速して走れるという状況である。これだけ計画が立っているのであれば、どんどん進めてもらいたい。観光的にも、素晴らしいことだと思う。今度は駅から観光客が来て、自転車でいかに安全に諏訪湖までたどり着くか、そういうことを、細かく検証する必要がある。諏訪湖の状況は、いい環境に進んでいると感謝している。

(渡邊代表)

諏訪サイクルプロジェクトは、自転車の愛好家の団体ではなく、自転車をキーワードにして、それでひとつの街づくり、街の発展を考える活動をしている。

この計画は、画期的な計画だと思う。すぐにでも着手して、何の問題もないような素晴らしい計画ではないかと思っている。車道の中に自転車走行帯、高速の走行帯が確保されているので、自転車の安全性が確保できる。自転車に乗る人が、歩行者と分離されるということは、ジョギングされる方との双方の安全性の確保ということになる。

観光面でも、諏訪湖へは大勢の方が観光にくるが、諏訪湖に来たのはいいが、何をしたらいいかわからないと言って、帰られる方も多い。自転車をわざわざ持ってきて、諏訪湖周を走られるが、部分、部分で区切られている自転車走行帯を走ると、皆さんめげてしまう。それが一つの道路として一周出来るものが出来るということは非常に望ましいことだと思う。

(田代所長)

諏訪湖周の小径、ジョギングロード、サイクリングロードという事に対して皆さんから賛同いただきました。課題を整理しますと、キーワードとして、自転車と歩行者の分離、諏訪湖周の自転車道としての連続性、諏訪湖の環境ということですね。このことを念頭に置きながら事業を進めていきたい。

次に整備計画案について、細かいところの問題点や要望などについて、具体的な部分でも、漠然とした部分でもかまわないので、それぞれの立場から御意見をいただけますか。

(三輪会長)

今の自転車の問題点として、自転車が法規を守っていないということがある。小学生は、教育されているが、年配は法規を知らない。その辺を考えると事故も少なくなると思う。

未完成の部分があっても、ジョギングロードでは走ればいいのだが、自転車は、歩く人より遅いくらいの人と、時速80キロで走るプロまでいるので、その境をどこへもっていったらいいのかということが、難しい問題だと思う。

観光というのは、目で見て綺麗だということ。第一印象は、目から入ってくる。そこを考えて、皆が協力して、本当に諏訪を良くしていく必要がある。

(田代所長)

今回サイクリングロードの整備と併せてジョギングロードも再構築を考えております。当時ジョギングロードの整備にあたっては、中距離走の皆さんも走れるような形ということで、ゴムチップの厚が5ミリの舗装をした。そういった点で、舗装の構成について、どの様に評価されるか。柔らかすぎることはないか。その辺について、御意見をいただきたいのですが。

(三輪会長)

走る人も、歩くより少し早く走る人と、プロで走る人というと思うが、佐久会長その辺はどうか。

(佐久会長)

プロで走る人達とか、そういるわけではない。その辺についてはそんなに気にする必要はないと思う。自転車と歩行と同じところを走るところが、何箇所かあるが、その安全性の問題などを、考えていく必要がある。

自転車は、双方向通行だが、道幅は3mで十分か？

(渡邊代表)

追い越しの時などは、道幅的に微妙ではあるかもしれない。

(佐久会長)

ブレーキを外して競技用で走っている様な自転車がいなければ大丈夫ではないか。

(林校長)

子供たちに接している立場として、子供だけで安全に安心して親が送り出せる環境であるのが大事だと思う。転んでしまったとき、自転車が故障してしまったときに、例えばチャイルドステーションのようなものが一定間隔にあって、パンクした時やチェーンを外したときに、気軽に子供たちでもできる、またはボランティアの方に直してもらえるような場所がポイントポイントにあること。または、学校にはボランティアで、キョロプラ隊と言うものがあり子供達を見守ってくださっているが、自転車愛好者の中にも、キョロプラ隊のような人がいて、目印を付けて走ってもらうなどあれば親も安心して送り出せると思う。

そうならば、子供たちがほほえむ湖畔になっていくし、将来大人になった時に自分がそういうことで関わりたいと考えるようにもなると思う。

やっぱりロードバイクはかなりのスピードで走っているのだから、子供たちには危険である、原案のとおり、ロードバイクは別の車道の横を走るということ、決定してもらいたい。

ただスピードは自己申告になると思うので、そのあたりを、どういうふうにすればいいのかが課題である。

また、岡谷市湊のあたりや、すわっこランドから下諏訪側など、人家とかお店とかが、途切れてしまうようなところで、隠れやすいところがある所は、防犯上、危険を感じるのだから、オープンで誰もが見える空間にしてもらいたい。

(河西会長)

実際の工事の時は、安全第一と、工事周知と、工事期間の短縮、ジョギングできる環境の確保をお願いしたい。湖畔でレストランを経営しているが、道路の工事期間が長く営業に支障がでたことがあり、営業している方たちの配慮も是非して欲しい。

各ホテルでは、レンタサイクルをしているようですが、観光客がサイクリングしたいときに、宿泊客でなくても気軽に利用できるような環境があればよい。

(佐久会長)

林先生の話のように、子供たちが、湖周を走っていて、もし自転車の何かの故障が起きた時に、たしかにチャイルドステーションなどがあればいいと言える。

観光の観点からは、時間が限られ何時間何分留まっていると言う方が最近多く、そういう人たちが、外に気楽に出てもらうには、やはり湖周を自転車で回るといふことがある。

このことから、気軽に借りられ、整備された自転車をレンタルできることが重要である。きちんとしてお貸しをし、きちんと返していただく、というようなシステムを、ホテル等にお願ひしたいと思う。

観光客を諏訪市の場合650万人位にする計画があるが、サイクリングロードも含めての宣伝をするということも考えている。

(渡邊代表)

それぞれの立場の方が、現状がこうあるべきだということを知り、今後ますます増やしていきながら、今回の計画が実現できるようにしていけばよいと思う。

(田代所長)

事務局側からお聞きしたいことはここまでですが、追加の御意見や、御要望などをフリーな議論をお願いします。

(佐久会長)

日本の湖での、先進的な事例や成功事例、再考した事例とはあるか。

(渡邊代表)

全てを調べた上での話ではないが、諏訪湖のように、「景観」「平地のコース」「湖周を一周できる整備された道路」「マラソンもできるし、自転車で時速16キロで走れば1時間、早めに走れば30分位で走ることができる16キロという距離」、このような環境が整っている場所は、日本のどこを見てもまず無いと思う。

ここに自転車道の整備がされるとなると、コンパクトであることに着目すれば、世界的にもかなり稀有な環境整備になる。観光面では非常に一押しスポットになると思う。

やはり距離感とコンパクトさ、便の良さ、道中に生活しているそのままがあり不便さを感じない、それでいて名所史跡がそこらに点在しているというコンパクトさが諏訪圏域の一番の売りだと思う。

(田代所長)

近隣では、山中湖など一部自転車道が整備されているが、市街地がこれだけ発達している

湖ではないと思います。事務局ももう少し勉強しておきます。

(河西会長)

高速自転車というのは、特別だと思うので、そのためのサイクリングロードでというのではなく、ファミリーを中心に観光客が、楽しむサイクリングロードを考えて頂き、工事期間を短く、利用が早くできるような形で準備して欲しい。

これからますます健康志向で主婦にとってもそういう志向になると思うが、ジョギングしている方のファッションが非常に素敵である。そんなことも、皆さんが言っていたように見た目の美しさに加わるのではないかと思うので、ジョギングロード・サイクリングロード進めていただきたい。

(高倉課長) (諏訪湖周サイクリングロード検討会議事務局)

出来るだけ早く工事をということで、背中を押して頂きました。是非予算を確保してやりたいところだが、基本的な所については、本日のお話や、一般の方のご理解をいただきながら、作っていききたいと思う。特に県道の部分については、できるだけ早く着手していききたいと考えている。

自転車が車道を走るというのは当たり前だが、県道の路肩がガタガタしている所があり、側溝の上を走って頂くのは危ないので、一応高速自転車用と書いている。あくまで諏訪湖周に来られる方はのんびり派が多く、景色を眺めながら、休みながらということから、自転車道の幅も3mとりたいと考えている。歩くくらいの速度で、2時間ほどでのんびり走って頂きたいというのを、自転車道とジョギングロードのコンセプトとして進めたいと思う。

自転車道については、今ジョギングロードはウレタン舗装されているが、下にアスファルト舗装がされているので、剥ぐと黒い舗装になる。出来るだけ早く自転車がジョギングロードを使えるような工夫を段階的に進めていきたい。

(林校長)

私は長野市出身なので、とても羨ましく思う。観光客誘致も大事なのだが、地元、諏訪に住んでいる人たちが、愛着を持っていつでも利用でき、そこへ行くと楽しいと、そういう思いが出に残る場所にしてもらいたい。観光地に行つて観光客しかいない所って面白くない。地元の人が出て地元の人達が楽しんでいて、そこで交流できたりすると、よい思い出になる。

諏訪の市民が気軽に利用できて、楽しめる場所があつて、地元の間も楽しめて、と言う場所があればいいと思う。

たとえば石彫公園などあるが、それ以外にプラスアルファで、自転車が集えて何かできるような所が付加的にできると非常に魅力的な場所になる。子供たちも喜んで行くのかなと思う。地元の間が、今も、通勤通学だけでなく、土日とか、日の長い夏とか、夕方とか、集えるようなそんなスペースがあればいいと思う。

(渡邊代表)

まさしくその通りだと思う。地元の間が諏訪湖周辺にいないことに寂しさを感じている。諏訪湖に地元の間がいないのは、身近に不便さを感じているから利用していない証拠

なのじゃないかと思う。便利であったり、楽しければ、そこには人が集うが、目に見えて不便であるという現状が、そこに出ている気がする。

海外では当たり前の、自転車に乗ること、走ること、湖畔に建物があって、カフェがあってということが、なぜ日本ではできないのかなと思うことがある。

そういう便利さがあれば人が集まり、人の行く所には、より便利な環境を作ろうという意識が働いていくと言った好循環を生むと思う。不便だから、使いにくいから、悪循環になるそのスパイラルを、この機会に好転換させていただきたいと思う。

幅員3メートルについての意見として、最近、子供を持つ母親が自転車の後ろに子供を乗せるチャイルドトレーラーと言う非常に便利なものがある。諏訪湖でそれを使うと逆に子供の命に係るような道路環境であるというような事がわかってくる。サイクリングロードが出来ると、そういったものも取り入れて、お母さんが子供を連れて諏訪湖周を散歩できるような環境、風景がこれから見えてくると思う。トレーラーの幅自体は大体60センチくらいで、そこに車輪がついて全体的に70センチ~80センチ位の大きさのものであるが、それを利用し、双方向プラスすれ違いプラスアルファで三車線くらいのを想定していればいい。実際に実証していくことが大切だが、このような現状に無いものも、情報として視野に入れて作っていかないと、後戻りが出来なくなるので、そんな情報を私どもが提案させていただきたいと思う。

そんな情報をできるだけ挙げながら、整備に使っていただきたいと思う。

(田代所長)

当初湖周道路は4車線道路として、考えていたのですが、緑地帯を残す2車線道路整備に変更され、いろんな考え方が出来るようになりました。現在においても社会的ニーズを反映しながら再構築できる所なので、御意見を頂きながらいいものを作ってまいりたい。次に聴講者の方からも、発言の要望がありましたのでお聞きしたいと思います。

(ほりうち氏) (聴講者)

誰にとってのサイクリングロードなのか、ターゲットは何なのかを、明確にする必要がある。高速自転車に乗る人たちは、サイクリングロードの有無に関係なく車道の左側を走る。

したがって、車道の左側を走ることを促す道路標識があればいい。しかし諏訪湖周辺を走る人達は、例えばレンタサイクルを借りて走る人達もいるので、そういう人たちがいきなり車道を走れと言うのは怖い。そういう人たちの為に、サイクリングロードをというコンセプトで事業を進めてもらいたい。

高速自転車で走る時に、道路の路側帯にあるグレーチングが危ない。スリップや、タイヤが細いため、グレーチングの目にタイヤがはまりパンクする危険もある。だから、グレーチングの目を細かくする、もしくは幅を狭くするなどの対策が必要だ。

県外から何十万円という高い自転車を持って諏訪にやってくる人たちが一番警戒しているのは、盗難だ。だから自転車から離れたくない。自転車を何処かに止めて商業施設を利用するには、盗難が怖い。だからコンビニにさっと寄っておにぎりを買って、それを食べて、

諏訪湖周辺をさっと走って帰ってしまう。それだと全く経済効果がないので、サイクルスペースとかサイクルオアシスを設置する場合、盗難対策として機能してほしい。安心して自転車を預けられる場所、既存の商業施設に自転車を一時的に預かってもらえる体制を整えてもらいたい。そこで、商業施設を利用してお金を落としていくという事をやってもらいたい。

(高倉課長)

現道の側溝の話だが、計画横断図の通り、改善をしたい。現状では狭い所もあるので、矢羽根(ナビライン)で、自転車通行場所のわかる路面表示をしたい。矢羽根で自転車の走行の方向が分かり、車を運転している人も自転車の通行場所が分かるようにしたい。盗難防止の観点では自転車を、ひっかける何かが必要なのかと思う。公園・施設を管理している市町村や商業施設の皆様と意見交換、協力しながら考えていきたい。

(田代所長)

いただいた意見は、今後の計画の中にかわしていきたいと思います。今後市町村、民間の方にもお願いする部分もあると考えます。

(河西会長)

今後の事業スケジュールについて聞かせて欲しい。

(高倉課長)

ジョギングロードと自転車道の交差するような部分の安全の確保など細かい安全対策などについて、河川管理者や警察とも協議しながら、来年の3月くらいまでに基本計画を策定したい。

来年度からは詳細な設計に一部着手していきたい。市町村の部分については、県では答えられないが、県道部については、率先して着手していきたい。

(田代所長)

当事業については、知事も非常に興味を持っています。観光部局や、他の部局、市町村の建設部門などと連携を取って、よい形で行っていききたいと思います。

このような形で皆さんから、後ろ盾を頂くことが、有効で効果的なものとなると思います。明確に10年後にはと言えませんが、現在のジョギングロードを持った県道の整備というのは、平成63年から着手して、おおむね10年程度で一つの形が出来ています。現在それだけ、余裕があるかということは別にして、私ども出来るだけ早く、実現したいと思っていますので、お力添えをお願いしたい。平成の始めから、諏訪湖にかかわるなかで、諏訪湖は湖周を諏訪地域の中庭にみたくて、皆さんが使えるようにしたいと言う、一つのコンセプトがありました。当初、コンクリートの人工護岸だったところと比べずいぶん水辺が良くなったと思います。佐久会長も、話されたが、輝く諏訪湖を取り戻しつつあると自負しております。皆様の意見を伺いながら、良い環境、そして良い状況を作っていきたいと思っています。

(渡邊代表)

サイクルプロジェクトではスワンアスロンとか、月に何回か、ペダルクラブと言う名前でも愛好者が集まって諏訪湖周を走るようなイベントを企画している。

不便だからできないではなく、不便な状況でもそこを利用することで、行政は動くと考えている。あれだけの利用者がいるなら、「何かをしなきゃいけない」とか、「こうあって欲しい」と言うように、民間の意志というか、表現をしていけば、少しずつ事業が早まっていくと思う。出来るだけ多くの方がジョギングをする姿、自転車に乗る姿、イベントなどを開催して諏訪湖の周りで何かをしている様子を、地元の人たちに見せて、地元の人たちが集まって、それを行政の方でもなんとかしなきゃいけないね、と言う形に持っていくことが大切だと思う。それぞれの方々が、諏訪湖を有効に利用する頻度を、増やしていけば、このような事業が必然的に早まっていくのではないかな。もし協力出来るような場面があれば是非声をかけていただきたい。

(田代所長)

渡邊さんからまとめていただきましたが、このような懇談会を設けたのは、皆様とのネットワークを徐々に作っていただきたいと言うこともあります。ジョギングロードが早く出来たというのは、やはり、諏訪湖マラソンの力と感じています。

その中で、次のステップとして、何かの形でこういったサイクリングロードやジョギングロードを生かして、使っていただければ、道路も早くできると思います。

(佐久会長)

観光協会は、どうしても人を呼んでこよう、そのためにはどうするのかということばかり考えて、イベントをやるが、一過性のイベントで終わってしまうこともありうる。また、自転車を管理してくれる所があれば、コンビニで食事をすませってしまうことも少なくなるかもしれない。今日はいろいろ見直させていただいた。

(田代所長)

わかりました。「いろんな発想をしていかなくちゃいけない」と感じていましたが、ひとつ教えられたところです。また、何らかの形で、構想、整備について、発信していきたいと思っております。使っていただければ、作ったものは生きてこないのです、そこをよろしくお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。